

# 通信制課程

～ ひとりひとりの「学びたい」という思いを支えます ～

## 1 だれでも自分のペースで学べます

通信制課程の高校における一番の特徴は、「自学自習」という独特の学習システムです。

全日制課程や定時制課程の高校のように、毎日学校へ登校する必要はありません。スクーリング（面接指導）の回数は月に3～4回程度です。つまり、その他の日は、自宅でレポート（報告課題の作成）に取り組むなど、自分で学習することになります。自分の生活スタイルに合わせて、学習時間を確保していくことができれば、学業と仕事とを両立することも可能です。



<スクーリング(面接指導)>



<校外研修>



<生活体験発表大会>

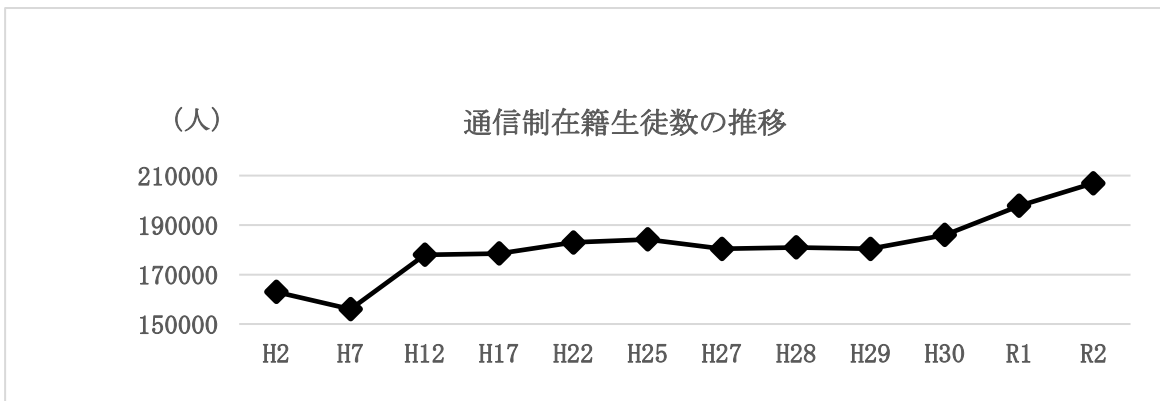


<校内スポーツ大会>

## 2 通信制課程の人気の高まっています

通信制課程を置く高等学校は全国で257校あります。生徒数は約20万7千人で、高等学校全体の生徒数が減少するなかで、その割合は増えています（令和2年度文部科学省学校基本調査による）。「将来のステップアップを目指すために高校卒業の資格が欲しい」「学び直したい」「人付き合いが苦手だが、月に3～4回程度の登校ならば通学できる」「働きながら学びたい」等、様々な事情や考えをもつ人達の学ぶ場になっています。

通信制課程は、「いつでも、だれでも、自分のペースで学習できる」システムです。最短3年間で卒業できますが、4年以上かかっても問題ありません。卒業までのペースは本人の「学びたい」という強い気持ちと努力次第です。



### 3 学習システム、単位修得システムを知ろう

通信制課程普通科で学習する教科・科目は全日制高校普通科と変わりませんが、システムが異なります。通信制の学習システムは、レポート（報告課題）作成、スクーリング（面接指導）、テストの3つが柱になります。

#### (1) レポート（報告課題）

学習の中心となるのがレポート作成です。レポートの数は教科や科目によって異なりますが、1つの科目について、4～13通程度です。

まず教科書、学習書の指定された範囲のをよく読み、放送視聴等も利用して自分で学習します。そして、レポート作成に取りかかります。レポートは設問形式になっているので、それに解答して完成させ、指定された期日までに提出します。提出されたレポートは添削されて返送されますが、間違いが多いと再提出になります。再提出になったら、合格するまでやり直し、繰り返し提出しなければなりません。定められた期限までに全てのレポートが合格していないと、テストを受ける資格が得られません。レポートの提出・合格期限を自分で確認し、しっかり守るという自己管理の姿勢が求められます。

通信制は「自学自習」が基本です



レポートは、B4版両面の問題プリントです。添削指導を受けながら、学習を進めます。

#### (2) スクーリング（面接指導）

登校して先生の指導を直接受けることを、面接指導と言います。月に3回程度、日曜日に登校して1日6時間の面接指導を受けます。先生の説明を聞いたり、実験や、実技・実習を行ったりします。科目ごとに年間に必要な出席時間数が決められているので、それ以上の出席が必要です。また、レポートを作成するためにもとても大切です。さらに、面接指導に出席するとクラスメイトと交流できるので、通信制課程の楽しさを倍増させてくれる有意義な時間です。面接指導のある日は、年間30日程度です。ホームルーム活動や学校行事などの特別活動も行われます。また、日曜日の面接指導に出席できなかった人のために平日（学校ごとに曜日が定められている）にも面接指導が行われます。教科に関する面接指導以外に、卒業するには一定時間数以上の特別活動等への出席が必要です。ただし、特別活動（ホームルーム活動と学校行事等）の多くは日曜日に行われるので、平日の面接指導に出席するだけでは卒業することができません。



#### (3) テスト

全てのレポートに合格し、定められた回数以上の面接指導に出席すると、年2回又は3回実施されるテスト（定期試験）を受験することができます。そして、テストに合格すると、その科目の単位が認定されます。